

建設工業新聞

加藤建設社長 加藤 徹氏

1966年愛知県蟹江町生まれ。91年東京都立大大学院工学研究科修了、加藤建設入社。96年取締役、03年社長に。



中部地区で建設に関連した各種の優れた取り組みを表彰する「第17回中部の未来創造大賞」(中部の未来創造大賞推進協議会主催)の優秀賞に輝いた加藤建設。建設事業と環境の調和を目指し、同社が数年前から展開している「エコミーティング」活動が評価された。この取り組みの狙いや今後の自社の事業展開などを加藤徹社長に聞いた。

中部発！建設再興 地域建設業の挑戦

——エコミーティングとは。

「建設事業は世間から環境を破壊するといイメージを残念ながら持たれている。それを払しょくできないかと考え、09年から始めたのが『エコミーティング』活動。着手前に工事に伴う環境や近隣への影響を自社で検討し、その対策を発注者らに提案する。良い提案をするためには環境に対する知識が必要のため、社員に日本生態系協会の『ピオトー

「当社は土木事業を得意とし、ゼ

ネコン(元請)案件と、地盤改良・圧入ケーソンなどサブコン(下請)案件がある。現在の売上高は200億円前後だが、その比率はおおむね4対6。13年にエリア別から事業別に組織や人員配置を見直した。これは東京や名古屋などのエリアで受注戦略を考えるのではなく、地盤改良や圧入ケーソン、一般土木という事業ごとに技術者を機動的に動かすも

建設業と環境の調和を図る

「建設業は世間から環境を破壊するといイメージを残念ながら持たれている。それを払しょくできないかと考え、09年から始めたのが『エコミーティング』活動。着手前に工事に伴う環境や近隣への影響を自社で検討し、その対策を発注者らに提案する。良い提案をするためには環境に対する知識が必要のため、社員に日本生態系協会の『ピオトー

「当社にはものづくりの楽しさを知ってもらい、技術者としてのプロコンとしてのやりがいも感じてほしい。2年前から夏・冬期の休暇とは別に『1週間連続休暇制度』を設けた。連続休暇の取得には仕事の効率化が求められるが、そうした副次的な効果も出てきた。これまで海外展開は考えていなかったが、今後は視野に入れる。そのためには社員のレベルアップに取り組みたい」。

「建設業は世間から環境を破壊するといイメージを残念ながら持たれている。それを払しょくできないかと考え、09年から始めたのが『エコミーティング』活動。着手前に工事に伴う環境や近隣への影響を自社で検討し、その対策を発注者らに提案する。良い提案をするためには環境に対する知識が必要のため、社員に日本生態系協会の『ピオトー

「当社にはものづくりの楽しさを知ってもらい、技術者としてのプロコンとしてのやりがいも感じてほしい。2年前から夏・冬期の休暇とは別に『1週間連続休暇制度』を設けた。連続休暇の取得には仕事の効率化が求められるが、そうした副次的な効果も出てきた。これまで海外展開は考えていなかったが、今後は視野に入れる。そのためには社員のレベルアップに取り組みたい」。

■会社概要 株式会社加藤建設。設立1970年(創業1912年)。本社・愛知県蟹江町蟹江新田下市場19の1。資本金1億8000万円。従業員数約290人。支店は東京・大阪、営業所は全国に12カ所ある。